

繼續事業評価調書

【農道整備事業】

広域営農団地農道整備事業

南淡路地区

農政環境部

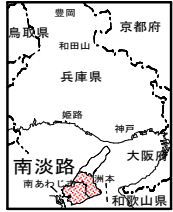
農林水産局 農地整備課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第4回〕）

部課室名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 中島 達也 (主幹 鶴崎 俊則)	内線	4003 (4041)	
事業種目	農道整備	新規評価年度	—	現計画	前回評価時	
事業名	広域営農団地農道整備事業 南淡路地区	事業採択年度	H6	総事業費	143億円	
		着工年度	H7	内用地補償費	25億円	
		再評価年度	H15、H20 H25	完成予定年度	平成34年度	平成28年度
事業区間	南あわじ市阿万上町～洲本市千草			進捗率 (用地補償進捗率)	87%(98%)	83%(94%)
				残事業費	18億円	25億円
事業の目的				事業内容【】前回評価時点:変更箇所のみ		
南淡路地域は玉ねぎ・レタス・水稻等の多毛作地帯であり、乳用牛・肉用牛の飼育も盛んな県下有数の農業地帯であるが、国道に交通が集中しており農畜産物の輸送効率が十分でない。このため本農道を整備し生産地から出荷地・消費地までの物流を活性化させ、農畜産業の振興や農畜産物の物流効率化を図るとともに、災害時等の輸送路・迂回路、通勤・通学等の生活路を確保し、農業生産基盤と生活環境基盤の両面において利便性や安全性の向上を図る。				農道新設 延長 17.0km 道路区分：第3種第3級 計画幅員：2車線 片側自歩道 車道 6.0m(全幅 10.75m) 日計画交通量：4,700台 受益面積：4,183ha【4,191 ha】 負担割合：国:50%、県:35%、市:15%		
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	① 「需要に応える農業の競争力強化と持続的発展」の一端として、都市近郊の立地を最大限に活かし農畜産物の効率的な輸送に向けた広域道路網の整備が必要とされている。 ② 内閣府による南海トラフ地震発生確率が平成29年に70%から80%に引き上げられており、災害時等の輸送路・迂回路を確保する必要性が益々高まっている。 ③ 平成27年3月にあわじ島まるごと食の拠点施設がオープンし、南淡路における物流の基幹道路のひとつとして、本計画道路の果たす役割が期待される。 【前回評価(H25)時点からの事業計画の変更概要】 前回評価時の完了予定年度はH28であり、その後H28の報告の際にH32完了としていたが、残区間の用地取得交渉が難航していることから平成34年度完成予定とする。					
進捗状況	進捗率は事業費ベースで87%、延長では15.6Kmで91%、うち供用開始は13.5Km。用地取得率は98%である。					
評価視点	評価結果の説明					
審査会意見及び対応方針(H25年度再評価)	【審査会意見】 継続妥当	【対応方針】				
(1) 必要性	① 南淡路地域は水稻・野菜の多毛作体系が行なわれており、農業産出額は野菜が県下の4割、酪農が3割を占め、県の主要な農畜産業地帯であるが、渋滞する国道や狭小な道路により非効率な輸送形態が続いているため、効率的な輸送経路の確保が望まれている。 ② 本農道は農畜産物を京阪神等に出荷する基幹道路となるが、部分的な供用開始で輸送路が分断されている本農道では効果が発揮されず、残りの区間を接続させる必要がある。 ③ 農家等の運搬負担の軽減を図るため、集出荷場への収穫物の搬入及び肥料・飼料等の輸送道路としても役立つ本農道が必要である。 ④ 災害発生時の避難経路の確保は非常に重要であり、洲本市及び南あわじ市においても本農道に対し緊急時の輸送路・迂回路としての役割が期待されている。 ⑤ 通勤・通学等日常生活における利便性や安全性の向上が求められている。					
(2) 有効性・効率性 (執行環境状況)	① 費用便益比 B/C=1.1 (前回評価時点 B/C=1.2) ② 洲本市・南あわじ市における新設市道の一体的な整備が進んでおり、効果的に事業効果を発現することが可能である。 ③ 市・JA・土地改良区で構成する「南淡路広域農道推進協議会」が設置されており、地域における協力体制が整っている。					
(3) 環境適合性	道路法面を保護するための植生として、山腹区間でのウバメガシなど在来種の復元に配慮するとともに、法面吹付基材は伐採した樹木をチップ化して再利用している。					
(4) 優先性	農業競争力強化のためには農畜産物の効率的な輸送基盤の整備が必要であり、本農道の事業実施の優先性は高い。					
再評価の結果	継続	理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、用地取得率も9割以上であり、残りの区間も早期供用を望む要望も強いことなどから、継続して事業を実施する必要がある。			

広域営農団地農道整備事業 南淡路地区 計画一般図

県内位置図



牛乳加工施設



乳牛の育成状況



農道で飼料販売店から畜舎へ運ばれる飼料



危険な国道を利用して通学する学生



国道の渋滞渋滞



対向の幅員確保が困難

対向の幅員確保が困難



建設が進む農道の池内工区



建設が進む連絡道路(市道)



供用開始された農道を利用して市場へ出荷



選果、箱詰、積込



選果場へ運びこまれる農産物



玉ねぎの収穫状況



レタスの収穫状況

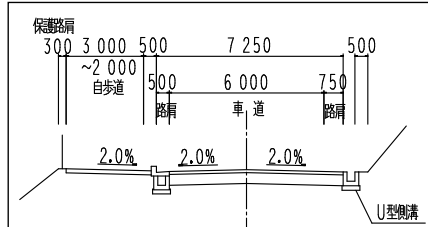


寺内堆肥センター



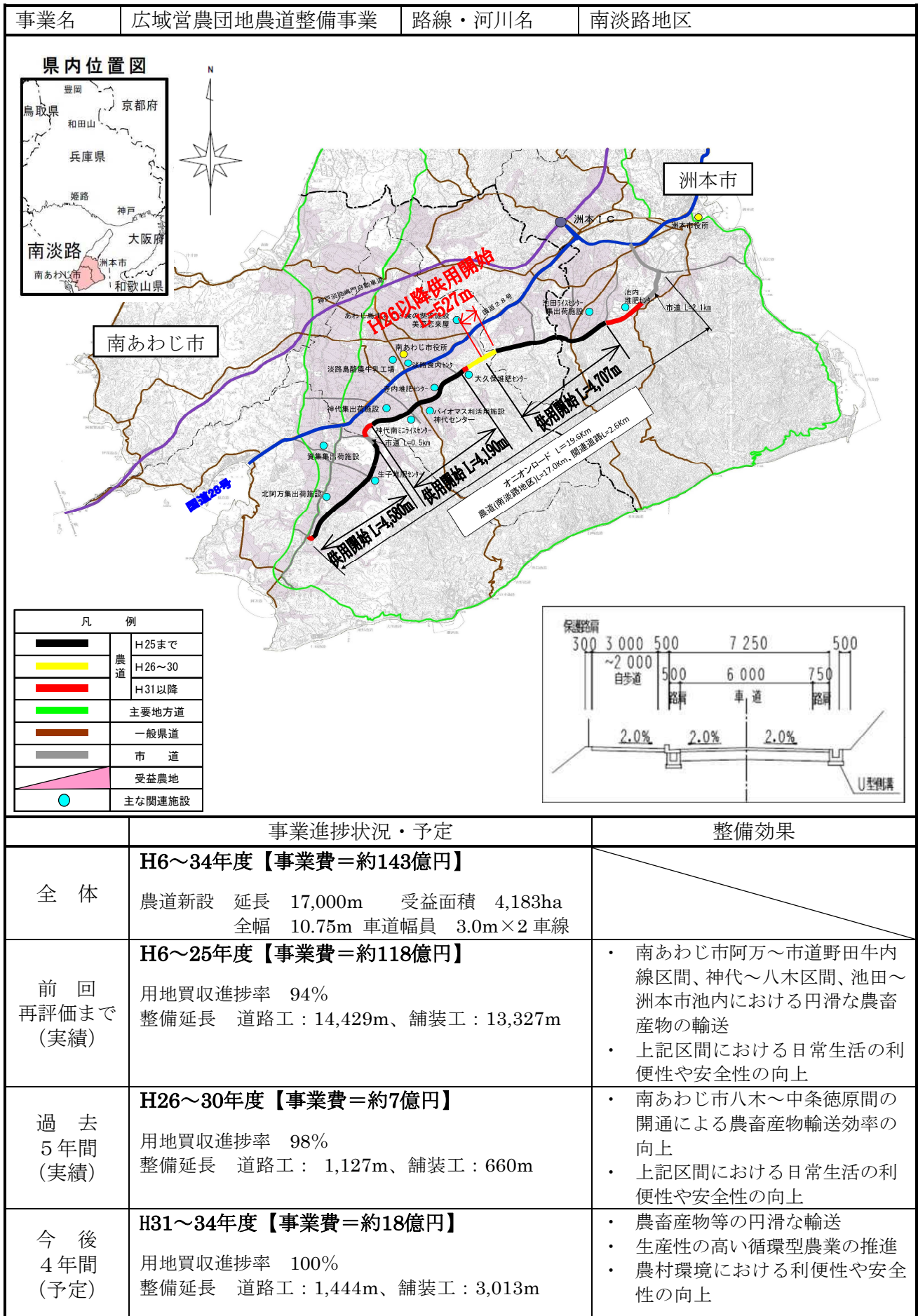
牛糞堆肥を農地還元

凡	例
黒色	H25まで
黄色	H26~30
赤色	H31以降
紫色	高速道路
藍色	国道
緑色	主要地方道
茶色	一般県道
灰色	市道
斜線	受益農地
青丸	主な関連施設



農道-2

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第4回〕）



1 実施工程表

	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
設計	[Blue bar from H6 to H25]																												
用地補償	[Red bar from H6 to H30]																												
道路工	[Blue bar from H8 to H27]																												
舗装工	[Red bar from H10 to H34]																												

■ :H25時点
■ :H30時点

2 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益 (B) の項目

事業	B(便益)	算出方法
農道整備	① 営農にかかる走行経費節減便益 ○ 農産物等の輸送等にかかる時間短縮による便益	整備無し of 走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma((\text{通作時間} + \text{輸送時間}) \times \text{時間あたり経費})$
	② 一般交通経費節減便益 ○ 一般交通にかかる時間短縮による便益	整備無し of 走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma((\text{走行時間}) \times \text{時間あたり経費})$
	③ 維持管理費節減便益 ○ 施設の維持管理に要する費用の節減による便益	整備無し of 維持管理費 - 整備有りの維持管理費

② 費用便益比 (B/C) 算出根拠

事業	事業名	B(便益)		C(費用)			B/C	
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
農道整備	広域営農 農道整備 事業費	① 営農にかかる走行経費節減便益	14,939	農業輸送等の走行時間短縮 農業輸送等の労働時間短縮	28,603	26,792	1,811	1.1
		② 一般交通経費節減便益	17,672					
		③ 維持管理費節減便益	-175					
		計	32,436					
	残事業費	① 営農にかかる走行経費節減便益	3,291	農業輸送等の走行時間短縮 農業輸送等の労働時間短縮	2,016	1,515	501	7.7
		② 一般交通経費節減便益	12,222					
		③ 維持管理費節減便益	-57					
		計	15,456					

費用便益比算定:「土地改良事業の費用対効果分析に関する基本指針の制定について」(農林水産省農村振興局長通達)

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 地震等の災害発生に備え、迂回路、避難活動、救援物資の輸送、その他緊急車両の移動などの交通需要に対応する。
- ② 救急病院への搬送時間短縮により、救急患者の生存率向上が図られる。
- ③ 洲本市・南あわじ市における新設市道を一体的に整備することで、「あわじ島まるごと食の拠点施設」整備構想をはじめとした都市農村交流による地域産業の活性化に寄与する。
- ④ 通勤・通学等日常生活における利便性や安全性の向上が図られる。

広域営農団地農道整備事業の効果

対象事業：広域営農団地農道整備事業 南淡路地区

(1)費用対効果

効果項目（費用対効果の便益内容）
営農にかかる走行経費節減効果 (走行速度向上等による時間短縮により、農畜産物の流通にかかる輸送経費が節減)
一般交通等走行経費節減効果 (農道新設によって流入が想定される一般車両の輸送経費が節減)
維持管理費節減効果 (農道の新設により照明等の維持管理経費が増加(マイナス効果))

(2)費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○ 県立淡路医療センター(災害拠点病院)へのアクセス道路
		救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○ 緊急時には東西基幹道路である国道28号線が混雑すると想定されることから、迂回路としての機能確保
		減災対策への取り組み (※避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	○ 南あわじ市阿万等で津波が発生した際の避難路としての機能確保
	平時	救急医療体制の支援	○ 県立淡路医療センターへのアクセス時間の短縮
		交通安全対策	○ 自歩道分離による歩行者・自転車通行者の安全確保
②地域の活性化	地域間交流の促進	○ 洲本市と南あわじ市の移動時間短縮による交流の促進	
	中心市街地の活性化	○ 南あわじ市から洲本市街地へのアクセス強化	
	地域産業の活性化	○ 洲本市と南あわじ市を結ぶ交通ネットワークの形成	
	観光支援	○ 市道と一体的に整備することによる洲本市主要観光施設(洲本城跡、温泉施設等)へのアクセス強化	
	地域プロジェクト等支援	○ 【「あわじ島まるごと食の拠点施設」との連携】 南淡路地域における横断的な物流の改善(生産地からの農畜産物供給等)	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	○ コミュニティバスや介護タクシーが走行可能となるなど、円滑な交通体系の確保	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	-	
⑤その他	文化財発見効果	○ 農道建設に伴う発掘調査により、埋蔵文化財が具現化される	

(3)地域からの要望状況等

要望状況等	①本事業は、地元の要望によって施行されている事業であり、地元の土地改良区、JA、市で構成する推進協議会（南淡路広域農道推進協議会）が設立され、事業推進に向けた調整・検討を実施している。 ②全線開通による効果が大いことから、推進協議会からも早期完成に対する強い要望がある。
-------	--